

令和7年度東京都立西高等学校学校経営報告

自己評価の基準：【A】十分に達成できた【B】概ね達成できた【C】あまり達成できなかった

今年度の教育活動への取組と重点目標	自己評価
<p>1 「授業で勝負」の理念のもと、日常の授業を改善するとともに、生徒の主体的な学習意欲の向上を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①日々の授業を通して、授業を第一に考える生徒を育成する。</p> <p>②「年間授業計画」に基づく、計画的で主体的な学習態度を育成する。</p> <p>③教科マネジメントの確立、研修の充実等により、教科指導力の向上を図る。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○「年間授業計画」と改訂した「学習の手引き」の活用指導とその検証</p> <p>○自学自習態度の育成</p> <p>○授業改善に向けた、相互授業見学の実施や生徒による授業評価結果の活用</p> <p>○土曜(教養)講座の充実</p>	<p>[数値目標1]生徒の「学習への取り組みの自己評価」の向上(目標80%)</p> <p>→【B】「学習への取組」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な割合は78.0%で、昨年度より0.9ポイント微増した。また、保護者については、肯定的な割合が昨年度の85.7%から83.4%に減少した。教員については100%で昨年度より1.5ポイント増加した。</p> <p>今後も、生徒が主体的に学習に取り組む姿勢の重要性を理解し、実践できるよう継続した指導を行うとともに、学習状況を保護者へ適切に伝え、家庭との連携を強化する取組を進めていく。</p> <p>[数値目標2]1・2年生の自宅学習時間2時間以上</p> <p>→【C】1年生の平日の自宅学習時間は平均1時間39分で、昨年度の1時間55分から減少した。他方、2年生は平均2時間0分で、昨年度の2時間11分から減少した。</p> <p>今後も、課題の出し方や学習支援の工夫を継続するとともに、生徒の自学自習を習慣化するための指導方策について検討を進める必要がある。</p> <p>[数値目標3]生徒の授業満足度90%以上</p> <p>→【A】「満足できる授業」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な割合は91.1%と昨年度より0.2ポイント微増した。2、3年生ともに昨年度より増加しており、授業に集中して取り組んでいる様子が見える。</p> <p>[数値目標4]土曜(教養)講座をすべての教員が開講</p> <p>→【C】平日開催も可能となり、積極的に複数の講座を企画・実施する教員や講師がいる一方、実施に至っていない教員もみられる。西高の教養教育を支えてきた取り組みとして継続してきた土曜講座を、学校全体の活動としてさらに広げていくことが今後の課題となる。</p>
<p>2 学習環境の整備と生活規律の向上を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>自覚を促す指導を通して、</p> <p>①感染拡大防止対策の徹底</p> <p>②校内美化の徹底</p> <p>③生徒の自己管理能力の育成を図る。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○感染拡大防止対策の徹底</p> <p>○生徒の美化意識向上</p>	<p>[数値目標5]校内美化に関する学校評価65%以上</p> <p>→【B】「校内美化の取組」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な割合は64.7%で、昨年度の58.3%と比較して大幅に増加した。</p> <p>生徒から寄せられた「清掃活動をもっと充実させるべき」との意見を大切にし、これを踏まえて取り組んできたことが、今回の評価向上につながったと考えられる。今後も、計画的に学習環境の整備に取り組んでいく。</p> <p>[数値目標6]遅刻者数 月1桁/学級</p> <p>→【B】学年での指導や遅刻指導月間の実施により、今年度も遅刻者数は減少傾向にあるが、遅刻を繰り返す特定の生徒に対して、継続して指導していく。</p>

<p>○所有物と時間の自己管理の徹底</p>	<p>〔数値目標7〕遺失物等の減少 →【B】生徒の貴重品や私物の管理は、生徒部や学年の指導を通じて改善に努めているが、今後も、ロッカー施錠の励行など、私物管理の徹底などの指導を継続していく。</p>
<p>3 教育公務員としての高い使命感・倫理観をもち、服務規律を遵守するとともに、協働意識を向上させ、ライフ・ワーク・バランスを図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①服務規律を徹底する。 ②情報資産を厳密に管理する。 ③情報の共有化と会議の効率化を図る。 ④分掌・教科等を越えた協働体制の拡充を図る。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○情報資産の管理体制の遵守 ○計画的な仕事の進め方により、分掌や学年が連携し業務の効率化を推進する。</p>	<p>〔数値目標8〕服務事故防止研修の実施(目標3回) →【A】4月、7月、12月の3回、悉皆の校内研修を実施した。本校の実態に応じた研修内容の充実を図っていく。</p> <p>〔数値目標9〕服務事故や服務上の課題ゼロの継続 →【A】企画調整会議や職員会議、教職員一斉メール等を活用し、服務事故防止を徹底した。特に、個人情報管理(定期考査における答案の紛失防止)や体罰の禁止(毎学期末に生徒及び教職員にアンケート調査と聴き取りを実施)に重点的に取り組んだ。事故のない職場を実現するため、今後も努力を重ねていく。</p> <p>〔数値目標10〕超勤時間が80時間/月を超える教職員ゼロ →【B】月80時間を超える超過勤務者は、年度当初 11 名から年度末 6 名へと減少した。授業評価等のアンケート集計の Forms 化、文書の電子化やペーパーレス化、議題精選による会議時間の縮減、部活動指導員の活用、業務分担の見直し等に取り組んだ結果である。今後もこれらの施策を継続し、超過勤務時間のさらなる縮減を図る。</p>
<p>4 教育改革の動向を見据えた指導体制、内容の見直しを行う。</p> <p>《方策》</p> <p>①大学入試改革に対応した指導体制の見直しを行う。 ②新学習指導要領を踏まえた指導内容・方法の改善・充実を図る。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○ICT 機器の運用力を高め、学習指導で生徒一人1台端末の活用方法の充実を図る。 ○「観点別学習状況の評価」を行い、「指導と評価の一体化」の主旨を反映した取組を行う。</p>	<p>〔数値目標 11〕将来構想委員会等での検討 →【B】教務部において観点別評価の実施状況をクロス集計により検証し、その結果を各教科で協議した。観点別評価の徹底に伴い、各教科で課題の提示が増加し、生徒への負担が過大となっている現状が確認された。今後は、各教科間で課題量の調整を図り、生徒の学習負担の適正化を検討することが課題である。</p> <p>〔数値目標12〕生徒一人1台端末を活用した教育活動を実践 →【A】授業では課題の提出、教材の共有及び添削指導について、ロイロノートの効果的な活用が見られた。また、大学の公開講座の告知など生徒全体への周知やアンケート集計などでTeamsやFormsの効果的な活用が見られた。</p> <p>〔数値目標 13〕教職員の共通理解を図るための校内研修等の充実 →【A】校内研修会を年間 12 回実施した。授業力向上や模試結果分析等の学習面に加え、各学年において生徒理解に関する研修を計画的かつ入念に行い、教職員間の情報共有と共通理解の一層の深化を図った。</p>

<p>5 本校の教育に理解と共感を抱く保護者、生徒の拡大を図り、挑戦意欲旺盛な生徒の獲得を目指す。</p> <p>《方策》</p> <p>①全校体制で広報活動を実践する。 ②委員会を中心に、効率的・効果的な広報活動を実践する。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○本校への入学希望者の拡大 ○学校説明会の内容・形態の見直し ○効率的な広報活動の開発</p>	<p>[数値目標14]本校への入学希望者の増加 (目標:推薦倍率3.50倍、一次倍率1.75倍)</p> <p>→【C】推薦に基づく選抜の応募倍率は2.83倍となり、昨年度比0.06ポイントの増であった。一方、学力検査に基づく選抜の応募倍率は1.52倍で、昨年度比0.10ポイントの減となった。</p> <p>生徒による学校紹介については、中学3年生及びその保護者から一定の評価を得た。また、12月及び1月には新たに個別相談を実施したが、総じて本校の魅力が十分に周知されているとは言い難い状況である。今後は、広報活動の在り方を再検討し、より効果的な情報発信に努める必要がある。</p> <p>[数値目標15]ホームページの更新回数350回以上</p> <p>→【B】ホームページの更新は、のべ350回更新した。部活動や修学旅行などの学校行事の様子など、日々の生徒の活動を順次掲載するとアクセス数が増加した。</p> <p>[数値目標16]外部での学校説明会の継続実施</p> <p>→【A】「学習塾等主催説明会」には11回参加した。また、今年度は「都立高校 EXPO」において、校長に加え生徒4名が登壇し、生徒の視点を踏まえつつ本校の特色及び教育内容を発信し、来場者から概ね良好な評価を得た。</p>
<p>6 キャリア教育や国際交流事業の推進等を通して、変化する社会の中で次代を担う人材の育成を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①3年間を見通した系統的なキャリア教育の実践の推進、PTAや同窓会と連携したキャリア教育関連事業の充実を図る。 ②国際交流事業の充実と教科等の学習活動との関連を図り、国内外の課題を解決する創造的思考力を育成する。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○職業的自立意識の醸成 ○国際理解の深化と国際協調の精神の涵養 ○グローバルリーダー育成研修の充実 ○姉妹校交流の推進 ○「学校2020レガシー」の充実</p>	<p>[数値目標17]訪問講義の充実</p> <p>→【B】西高会(同窓会、PTA、学校)の教育支援事業委員会で、生徒の興味関心を高めるテーマ選択、講師選定を行い、昼休みの放送などで生徒に魅力を伝え、保護者も含めのべ643名の参加者を集めることができた。</p> <p>[数値目標18]ジョブシャドウの拡大</p> <p>→【B】昨年度中止になった卒業生の勤務する病院での医療体験を復活させ、9名の生徒が参加した。</p> <p>[数値目標19]国際交流事業の充実</p> <p>→【A】東京都教育委員会が主催する海外大学進学講座、次世代リーダー育成道場、TOKYO ENGLISH CHANNEL「高校生国際会議」が開催され、本校からも意欲ある生徒が参加した。併せて、今年度初めて都立高校生等の海外派遣研修(アメリカ)に5名の生徒を派遣した。</p> <p>[数値目標20]留学、海外研修等参加生徒の維持</p> <p>→【B】首都圏公立進学校校長交流会主催の「スタンフォード大学研修プログラム」やインドネシアの姉妹校との交換留学による交流を実施し、生徒同士の活発な意見交換がなされた。安全確保を図りながら、</p>

	<p>今後も留学・海外研修を継続していく。</p> <p>[数値目標 21]アメリカ研修、パスファインダープログラム研修等の充実 →【B】講師や留学生と英語で議論するパスファインダープログラムを国際高校と協働して実施した。他校生徒との交流を通じ、有意義な学びとなった。また、アメリカ研修では、生徒がボストンにある最先端の大学・研究機関の訪問や現地学生との交流を経験し、視野を広げるとともに進学への意欲を高める機会となった。</p>
<p>7 考査や模擬試験等を通して「学習の手引き」の検証と改善を行うとともに、教科としての学習支援体制の一層の充実を図る。また、教科資料の共有化を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①各種試験の調査分析を実施する。 ②分析に基づく教科としての学習支援体制の充実を図る。 ③教材プリント等の共有化を図る。 ④Society 5.0時代を踏まえ ICT 機器を活用した授業を推進する。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○問題分析集の作成 ○検証に基づく教科シラバスの改訂、修正 ○補習補講の充実 ○教材の共有化 ○個人データの活用 ○探究活動の充実 ○デジタル技術の活用力を高め、生徒端末の活用方法を工夫</p>	<p>[数値目標 22]「教え方の工夫」に関する生徒肯定評価90%以上 →【B】生徒による「教材や教え方の工夫」に関する肯定的評価は92.6%となり、昨年度の93.6%と比較して1.0ポイントの低下が見られた。今後は、授業改善の取組を継続するとともに、生徒の学習状況及びニーズを踏まえた指導方法の一層の工夫・充実を図る必要がある。</p> <p>[数値目標 23]夏期講座、日常的な補習・補講の充実 (目標:夏期講座80以上) →【C】夏期講座は、講座の組み方などを工夫し、74講座(昨年度72講座)を開講した。</p> <p>[数値目標 24]大学入学共通テストにおける6教科18科目の平均点合計を全国平均合計で300点上回る。 →【A】大学入学共通テストの6教科18科目の平均点合計で、全国平均点を339.76点上回る結果であった。</p>
<p>8 三年間を見通した継続的・計画的な指導を通して、主体的に活動する生徒の育成を図るとともに、高い進路希望の実現を図る。</p> <p>《方策》</p> <p>①「年間授業計画」に基づき、計画的な指導を推進する。 ②面談やホームルーム活動等を通して生徒理解に努め、生徒が意欲あふれる学校生活を送れるように支援する。</p>	<p>[数値目標 25]生徒の入学満足度95% →【B】「入学満足度」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な割合は、95.4%で目標を上回った。行事や部活動に対する制限がなくなり、学校生活に魅力を感じた生徒が多かった。</p> <p>[数値目標 26]保護者の入学満足度100% →【B】「入学満足度」に関する学校評価アンケートで、保護者の肯定的な割合は97.8%で、昨年度と同様に高い割合であった。</p>

<p>③生徒の個人データや学年進路通信、進路ノート等を活用し、進路意識の啓発に努め、高い進路希望の実現を支援する。</p> <p>④探究活動を充実させる。</p> <p>《重点目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○勉強と特別活動の両立 ○生活規律の確立と美化意識の向上 ○生徒理解の研修会の実施 ○自覚を促す進路指導の充実 ○「学習の手引き」の活用の一層の促進 ○個人データの活用 	<p>[数値目標 27]1・2年生の自宅学習時間2時間以上</p> <p>→【C】1年生の平日の自宅学習時間は 平均1時間39分で、昨年度の1時間55分から減少した。他方、2年生は 平均2時間0分で、昨年度の2時間11分から減少した。今後も、課題の出し方や学習支援の工夫を継続するとともに、生徒の自学自習を習慣化するための指導方策について検討を進める必要がある。</p> <p>[数値目標 28]遅刻者の減少</p> <p>→【B】学年での指導や遅刻指導月間の実施により、今年度も遅刻者数は減少傾向にあるが、遅刻を繰り返す特定の生徒に対して、継続して指導していく。</p> <p>[数値目標 29]美化に関する生徒の学校評価の向上</p> <p>→【B】「校内美化の取組」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な割合は64.7%で、昨年度の58.3%と比較して大幅に増加した。生徒から寄せられた「清掃活動をもっと充実させるべき」との意見を大切にし、これを踏まえて取り組んできたことが、今回の評価向上につながったと考えられる。今後も、計画的に学習環境の整備に取り組んでいく。</p>
<p>9 特色ある教育課程のもとに教育環境を整備し、生徒の主體的・意欲的な学習態度を育成し、自学自習の習慣の定着を図る。</p> <p>《方策》</p> <ol style="list-style-type: none"> ①現行教育課程及び指導と評価の一体化を推進する。 ②自学自習の態度を育成する。 ③進路部と協働して、三年間の生徒の学習実績を検証する。 <p>《重点目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○カリキュラムマネジメントの推進・検討 ○学習ガイダンスの実施 ○生徒の自学自習を支援する体制の整備 	<p>[数値目標30]年間の授業時数1000時間以上の確保</p> <p>→【A】今年度は1学年1045時間、2学年1078時間を確保した。</p> <p>[数値目標 31]将来構想委員会等での成果検証</p> <p>→【B】教科主任会を通じて、指導と評価の一体化や教育課程の再検討を行った。</p> <p>1日の家庭学習時間の減少と1日のスマホ利用時間の増加には強い相関が見られたため、進路部主任が家庭でのスマホ時間を減らすよう学年集会で生徒を指導し、保護者会では保護者に危機意識を共有してもらい、協力を依頼した。</p>
<p>10 生徒の高い進路希望を実現するために、進路情報や進路資料を整備し、段階的、系統的な進路指導を実施する。</p> <p>《方策》</p> <ol style="list-style-type: none"> ①進路通信や学年集会等を活用し、進路意識の啓発を図るとともに、緻密にして、系統的な進学指導を推進する。 	<p>[数値目標 32]進路結果の分析会の実施</p> <p>→【B】7月にベネッセ大学入学共通テスト模試分析会(3年)、10月に進研模試第1回ベネッセ駿台大学入学共通テスト模試分析会(3年)、11月に第2回ベネッセ駿台記述模試分析会(3年)、12月にベネッセ総合学力テスト分析会(1、2年)、3月に河合塾全統記述模試(1、2年)、河合塾学びみらいPASS(1年)、ベネッセ思考力テストGPS－Academic分析会(2年)、ケンブリッジ英語検定リンガスキルの結果分析会を開き、生徒の学力の把握と理解に努めた。</p>

<p>②進路指導室の進学指導資料の充実を図る。</p> <p>③学年との連携を図り、進路相談機能を充実させる。</p> <p>《重点目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○蓄積された進路情報の分析と校内への周知 ○教師用の進路資料の充実 ○現行の進路指導計画の検証 ○新たな進路データベースの円滑な運用 	<p>[数値目標 33]生徒の進路情報・進路指導満足度90%の維持</p> <p>→【B】「進路情報の提供」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な割合は93.3%で、昨年より2.2ポイントほど上回った。「進路部便り」の活用を進めるなどの対策を継続していく必要がある。</p> <p>[数値目標 34及び35]自習室利用の維持、チューター利用の増加</p> <p>→【B】西高会館の自習室利用は5117名で、昨年度に比べ1463名増加した。チューター利用者は110名で、昨年度に比べ198名減少した。</p>
<p>11 多様な部活動や学校行事を通して、主体的に取り組む生徒の育成を図るとともに、規律ある学校生活の中で、遅しく生きる生徒の育成を図る。</p> <p>《方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①活気に溢れる中でも規律ある学校生活を推進する。 ②行事・部活動等の支援体制を整備し、目的と規律のある特別活動の一層の充実を図る。 ③いじめの未然防止、早期発見・対応を図る。 <p>《重点目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○真の「文武二道」に向けた指導体制の確立 ○規律ある学校生活の確立 ○目的意識や課題意識のある生徒の育成 ○進化する学校行事の実践 	<p>[数値目標 36]部活動加入率100%</p> <p>→【A】活発な部活動が行われているが、兼部の生徒も含めた部活動・同好会・サークルへの加入率は201%となり、数値目標を達成した。今後も継続して文武二道の完遂を指導する。</p> <p>[数値目標 37]遅刻者数の減少</p> <p>→【B】学年担任からの継続的な指導や年間3回の遅刻指導月間の実施により、今年度も遅刻者数は減少傾向にあるが、遅刻を繰り返す特定の生徒がいるため、継続して指導していく。</p> <p>[数値目標 38]遺失物等の減少</p> <p>→【B】生徒の貴重品や私物の管理は、生徒部や学年の指導を通じて改善に努めているが、今後も、ロッカー施錠の励行など、私物管理の徹底などの指導を継続していく。</p> <p>[数値目標 39]学校行事への生徒の取り組みに関する評価90%</p> <p>→【C】学校評価アンケートにおける「学校行事への取組」に関する生徒の肯定的回答は88.6%であった。目標値の90%には達しなかったものの、生徒の多くが学校行事に対して肯定的に評価していることが確認された。</p>
<p>12 生徒の自己管理能力を育成し、健康で安全を心がける生徒の育成を図る。</p> <p>《方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①生徒による主体的な活動を支援し、校内の美化や衛生の改善に努める。 ②スクールカウンセラーらの活用を通して、生命尊重と思いやりの心を育成する。 	<p>[数値目標40]校内美化に関する学校評価を上昇</p> <p>→【B】「校内美化の取組」に関する学校評価アンケートで、生徒の肯定的な割合は64.7%で、昨年度の58.3%と比較して大幅に増加した。</p> <p>生徒から寄せられた「清掃活動をもっと充実させるべき」との意見を大切に、これを踏まえて取り組んできたことが、今回の評価向上につながったと考えられる。今後も、計画的に学習環境の整備に取り組んでいく。</p>

<p>《重点目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内美化の徹底 ○生徒理解の深化 	<p>[数値目標41]生徒理解の研修会の継続実施</p> <p>→【B】教員間の生徒情報交換と、SCを含む生徒理解の研修会を合計4回実施した。</p> <p>[数値目標42]スクールカウンセラーとの相談件数の維持</p> <p>→【A】生徒・保護者・教員からの相談件数は298件で、昨年度の246件を上回った。生徒や保護者に加え、教員からの相談も増加しており、生徒支援を進める上で、スクールカウンセラーが学校にとって不可欠な存在となっていることが示唆される。</p>
<p>13 P T A、同窓会をはじめ地域や社会教育と連携することにより学校支援体制を整え、教育環境・条件の改善整備に努める。</p> <p>《方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ① P T Aや同窓会との連携を深め、教育環境の整備を推進する。 ② 学校運営連絡協議会を円滑に運営する。 ③ 文化事業を円滑に実施する。 <p>《重点目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ P T Aや同窓会による生徒への支援活動の円滑な実施 ○ 文化事業の工夫 ○ 学運協をはじめ外部の意見を校内に周知 	<p>[数値目標43]保護者の入学満足度100%</p> <p>→【B】「入学満足度」に関する学校評価アンケートで、保護者の肯定的な割合は97.8%で、昨年度と同様に高い割合であった。</p> <p>[数値目標44]訪問講義への生徒参加の増加</p> <p>→【B】西高会(同窓会、PTA、学校)の教育支援事業委員会で、生徒の興味関心を高めるテーマ選択、講師選定を行い、昼休みの放送などで生徒に魅力を伝え、保護者も含めたべ643名の参加者を集めることができた。</p>
<p>14 校内や生徒の端末機器の管理や運用全般について他分掌をリードし、校内のDXを推進する。</p> <p>《方策》</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 都教委からの指示に基づく校内端末機器の適切な管理・運用を推進する。 ② 校内でのICT機器の活用推進を図る。 <p>《重点目標》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 関係部署との連携 ○ 業務の効率化、省力化 ○ 校内運用に係る文書類の一元整理 	<p>[数値目標45]生徒一人1台端末の利用実績向上</p> <p>→【B】教科に関する課題提出や質問を受ける際にロイロノートを用いており、総合的な探究の時間などにも利用は広がっている。BYOD系を選出し、一人1台端末の使い方の西高タブレットマナーを作成し、利用と管理方法を徹底している。また、生徒への連絡ツールとしてTeamsを用いており、利用頻度が増加している。</p> <p>[数値目標46]教員の教育活動への活用向上</p> <p>→【B】校内研修を年度当初など計画的に実施し、特にロイロノートの授業への活用は進んでいる。また、企画調整会議や職員会議を、ロイロノートを活用してペーパーレスで行っている。さらに、生徒向けの連絡はTeamsで、保護者向けの連絡や欠席連絡はClassiで行い、DX化が定着している。</p>

<p>15 計画的な予算執行と校内関係部署との連携により、円滑な教育活動を支援するとともに、温かい窓口業務を行う。</p> <p>《方策》</p> <p>①業務内容に応じて、日頃から管理職や関係教員との連携を心がけ、業務の円滑な実施と省力化を推進する。</p> <p>②丁寧で温かい窓口業務を行う。</p> <p>《重点目標》</p> <p>○関係部署との連携</p> <p>○業務の効率化、省力化</p> <p>○計画的にして効率的な予算執行</p> <p>○施設の老朽化に対する対応</p>	<p>[数値目標 47] 令和8年度予算大綱を10月当初までに決定 →【A】予算大綱である予算編成指針を、10月初旬に決定した。</p> <p>[数値目標 48] 自律経営推進予算の執行を第2四半期終了までに65%を目指す。 →【A】自律経営推進予算の第2四半期終了までの執行率は66%であり、目標を達成した。</p>
---	---

次年度以降の課題	対 応 策
<p>【学習指導】</p> <p>①現行学習指導要領への対応</p> <p>②学習クラウド・生成A I の活用</p> <p>③ICT 機器の有効活用</p> <p>④都立学校統合型校務支援システム (C4th) ・東京都教育ダッシュボードの有効活用</p> <p>⑤学びの本質や改善を深める授業及び探究的な学びの推進</p>	<p>【学習指導】</p> <p>①現行教育課程において指導と評価の一体化が実現されているかについて検証していく。</p> <p>②他校の実践例等を参考にしながら、学習クラウド・生成A I の活用を研究し、実践・普及を図っていく。</p> <p>③教員の相互授業参観や校内研修を通じて、ICT 機器を有効活用した授業改善への取組を推進する。</p> <p>④学習活動の基礎データの管理・蓄積について都立学校統合型校務支援システム (C4th) ・東京都教育ダッシュボードの具体的な活用法を開発する。</p> <p>⑤全ての教科・科目で魅力的な授業の実践を推進する。</p>
<p>【生活指導】</p> <p>①活発で適正な部活動の推進</p> <p>②遅刻常習者の減少</p> <p>③交通事故防止・安全教育の徹底</p> <p>④防犯上の安全確保</p> <p>⑤SNS の適切な使用</p>	<p>【生活指導】</p> <p>①部活動の活性化を目指す一方で、部活動ガイドラインに基づいて適正な運営を行うとともに、部活動指導員を活用して顧問教員の負担軽減を図る。</p> <p>②遅刻指導を年3回実施して遅刻常習者の把握と指導を行う。</p> <p>③各学年での交通安全指導、ヘルメット着用及び自転車保険加入の徹底などにより交通安全の意識を高め、交通事故を防止する。</p> <p>④ロッカー利用の推進や通年の校内巡回などで、防犯体制を維持・強化する。</p> <p>⑤ネット上のトラブルの防止に向けて SNS の適切な使用について、情報の授業やセーフティ教室などを通じて指導する。</p>

<p>【進路指導】</p> <p>①探究活動の充実</p> <p>②英語の4技能型外部検定試験の結果分析と活用</p> <p>③チューターの活用</p> <p>④第一志望校を諦めない指導、面倒見の良い進路指導</p>	<p>【進路指導】</p> <p>①同窓会や外部機関との連携を一層強化し、外部人材の活用により、課題研究において専門家から生徒が助言を得る機会を充実させる。土曜特別講座や理数研究拠点校事業の活用により、生徒の探究活動を活発化させる。</p> <p>②既に英語の4技能型外部検定試験の結果等に基づいて年5回のスピーキングテストを導入しているが、継続して4技能育成の指導を行っていく。</p> <p>③科目選択や定期考査前等の時期に、ミニ講座等を開くなどでチューターの一層の活用を図る。</p> <p>④卒業生を活用したキャンパスツアーや講演会の実施により、志望大学への理解を深化させて、最後まで第一志望を諦めない進学指導を行うとともに、生徒面談を活用したきめ細かい進路指導を行う。</p>
<p>【保健美化指導】</p> <p>①ゴミの減量化の取組</p> <p>②美化清掃の改善</p> <p>③教室および廊下ロッカーの上の私物や備品の整理</p> <p>④粗大ゴミ処分</p>	<p>【保健美化指導】</p> <p>①運動会や記念祭でのゴミ減量化を一層進めるとともに、減量化の意識を更に高め、生徒に積極的な実行を促す。</p> <p>②生徒の美化意識を向上させるとともに、担任や担当教員が日々指導する。また、分別意識を高める活動を、美化委員会を中心に展開する。</p> <p>③生徒の持ち物の管理方法について継続検討する。</p> <p>④粗大ゴミの計画的処分を進める。</p>
<p>【学年・教科における指導】</p> <p>①肯定的に自己を捉え、自主的かつ臨機応変に活動する力の育成</p> <p>②1・2年次での確実な学力定着と3年次での読解力・記述力の育成</p>	<p>【学年・教科における指導】</p> <p>①本校で実施される土曜特別講座や各種講演会、訪問講義等の活動へ自主的に参加するよう促し、その取組成果を生徒が共有できるように工夫する。</p> <p>②自学自習習慣を入学時より身に付けさせるとともに、補習や講習の実施により、苦手科目を作らせない学習指導を行う。記述模試や思考力テストの活用と検証を進める。</p>
<p>【防災教育】</p> <p>①「地域と連携した防災体験活動」において、講話や体験活動内容・避難訓練の実施形態など、連携内容の一層の充実を図る。</p>	<p>【防災教育】</p> <p>①総務部を中心に、地域・諸機関・該当学年と相談し、「地域と連携した防災体験活動」の実施計画を策定する。</p>
<p>【募集対策・広報活動】</p> <p>①入学者選抜の倍率向上</p> <p>②学校見学会、説明会、入試問題解説会等の内容充実</p> <p>③ホームページによる情報発信の充実</p>	<p>【募集対策・広報活動】</p> <p>①西高の魅力をより一層充実させ、中学生や保護者への確に伝える。</p> <p>②生徒による説明や校内案内、動画の活用等を検討する。</p> <p>③各学年・分掌・教科等の担当者により、行事や日常の出来事、教科指導など、ホームページに掲載する内容と更新頻度を充実させる。</p>